

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	ムトス飯田支援事業	会計	一般会計	事業No.	10	施策順No.	73-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	2-1-5-10-8		
政策	7 自立・連携した地域づくり					課等名	地域づくり・庶務課
施策	73 住民組織間の交流・連携の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①地域づくり活動を行う市内の団体、NPO、市民 ②20地区まちづくり委員会及び単位自治会、公民館分館						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		助成金申請件数	31	30	34	33	30	
	意図	①及び②の協働によるまちづくり活動が行われる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	助成金交付件数	31	28	33	30	31	30	A
	ムトス飯田賞表彰数	2	2	2	2	2	2	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	事前ヒアリングは団体との相談、助言ができる場となり、その成果を審査に活かすことができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

第5次基本構想基本計画は、多様な主体によるまちづくりの実現に向けて、まちづくりの目標として施策ごと数値目標を掲げている。そこで、多様な主体の協働によるまちづくりを推進するため、まちづくり委員会など地域づくりにモデル的な活動を行う団体及びその他独創的で波及効果の高い事業を行うまちづくり活動団体に対し支援を行うもの。  
支援事業等の運営は、ムトス飯田推進委員会が行う。ムトス飯田推進委員会の委員は自治会経験者を加えた10人である。

事業の制度(仕組み)説明	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 ムトス飯田推進委員会の運営 ・ムトス飯田まちづくり・地域づくり事業募集 ・上記事業による助成金交付 31件 5,512千円 ・交流会(支援事業の内容の発表会) ・ムトス飯田賞の表彰 ・事例集の作成	委員会開催回数 交流会参加人数 表彰団体数 事例集掲載団体数 事例集配布数等	5回 100名 2団体 132団体 260部
	23年度実施計画	1 ムトス飯田推進委員会の運営 ・ムトス飯田まちづくり・地域づくり事業募集 ・上記事業による助成金交付 30件 7,000千円 ・交流会(支援事業の内容の発表会) ・ムトス飯田賞の表彰 ・事例集の作成	委員会開催回数

3 事業コスト

		(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額		
事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	(そ)ふるさと基金繰入金
		県支出金					
		起債					
		その他	9,000	6,000	7,000		
		一般財源		3,000			
	計 (A)		9,000	9,000	7,000		
	正規職員所要時間			300			
	臨時職員等所要時間						
	人件費計 (B)			1,073			
	トータルコスト A+B			10,073			

4 事業に対する市民や議会の意見

ふるさと創生1億円を市民活動のため有効利用してほしいとの市民の声(平成3年度) 単年度事業ばかりでなく、複数年事業も支援できるよう工夫していただきたい(H21基本構想基本計画推進委員会からの提言)
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住民組織が互いに交流連携し活動していくこと	施策の成果指標又はムトス指標	交流連携して行った活動の数
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	従来の地域づくり、まちづくり活動に加えまちづくり委員会等や自治会などの活動が支援対象となり、交流会や事例集をとおして相互理解及び交流が深まった。		
	後期に向けた課題	さらに交流・連携が深まり市民活動が活性化されること		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	助成事業の審査方法(事前ヒアリングの実施)、飯田賞受賞団体の活動支援(ムトスパワーアップ支援金)について見直しを行った。また団体相互の交流、連携による活動が促進されるように、助成団体、飯田賞受賞団体、まちづくり委員会及びNPO法人の活動を紹介する「ムトスのまちづくり事例集」を作成した。		
	後期に向けた課題	広域的に活動ノウハウをもつNPO法人などと住民組織がさらに交流を深め連携した取組みが促進されること。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	委員定数の見直し 飯田賞副賞の見直し		
	後期に向けた課題	助成事業の要望は多く今以上の削減は困難		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	自己資金が相当金額必要であり助成割合・上限金額は適切である。 助成事業による資金面での支援、ムトス飯田賞による活動奨励・ムトスの精神の推進及び交流の促進・情報提供(発信)は適切な支援である。		
	後期に向けた課題	受益者負担の程度は現状維持 交流連携がさらに促進されるよう支援が必要		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①主体的にまちづくりを行う団体・個人 まちづくり、地域づくり事業をとおして活動が活性化されまちづくりが促進された ②まちづくり、地域づくり事業による支援、事前ヒアリング等での相談、助言 交流会、事例集による交流の促進、情報の提供		
	後期に向けた課題	さらに交流・連携が深まり市民活動が活性化されること		
全体を通じて	4年間の振り返り	ムトス飯田賞が創設から25年を迎えたことを区切りとし、審査方法や飯田賞受賞団体の活動支援など見直しがされた。 まちづくり委員会・自治会・公民館分館を対象とする地域づくりモデル活動支援事業は地域課題の解消に役立った。		
	後期に向けた課題	地域づくりモデル活動支援事業のあり方、内容(まちづくり委員会等の支援方法)		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
-----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------